

春を待つ理由

48名の卒業生がこの寺家小学校を巣立ちました。6年間、そして最高学年としての1年間、本当に頑張ってくれたと思います。この節目が確実なステップとなるよう、心から応援したいと思います。

さて、陽射しのあるお天気はいいものです。たくさんの子供たちが待ちかねたようにグラウンドに出て遊んでいました。春の陽気につられて、いかにものびのびとうれしそうに体を動かしています。

春の陽射しをあびるのは、大人の私たちでもうれしいものです。大人も子供も、春が来れば、ただ外で活動できるという喜びだけではなく、学年や年度が新しくなって、またやり直せる、違う環境に身を置いて新しい自分を見付けることができるという期待感があるのではないのでしょうか。

子供たちが新しい学年から自分を変えたいと思っている期待に答えるべく、教員はよい出会いやスタートの演出を考えなければなりません。それは当然どの先生もやっていることで、今更言うことではないかもしれませんが。ただし、あまり意識しないことで気を付けなければならないのは、前担任を否定する言葉をうっかり口にしないことです。自分の方針ややり方と異なる点があっても、「○○先生はそう言われたんだね。それもいいけど、今度このやり方でやってみよう」と、前担任を肯定しながらも、自分のやり方を働きかけていく必要があります。子供はきっと新しい担任に期待と不安を抱えています。中には、前担任に思いを残したままの子供もいることでしょう。その子供にうっかりでも前担任を否定するような言葉を言えば、いっぺんに心が離れていってしまいます。それを呼び戻すのには時間がかかります。私たち大人は子供たちを安心させてやらなければなりません。

待ちに待った春です。別れと共に出会いが訪れる季節。大切な出会いをどのように迎えるかを、何度繰り返しても大切にしなければならないと考えています。

いよいよ、令和6年度も終わりを迎えます。保護者の皆様、地域の皆様、いつもご理解とご協力をいただき感謝しております。皆様にとって、素敵な令和7年度になりますよう心からお祈りします。本当に1年間ありがとうございました。

(校長 村杉 一也)